



<発行>
 南部合唱団
 連絡先: 〒214-0022
 川崎市多摩区堰
 1-22-1-416
 TEL: 044-833-6220

初心に帰る

13代団長 加山 忠

コロナ禍および芸術局長加山明美逝去のため延期されていた、南部合唱団第64回総会が6月10日旗の台文化センターで開催されました。今総会にて、私、加山忠が団長に選ばれました。1958年11月に国鉄大井工場ピアノ室にて南部合唱団誕生、初代団長石倉領さんから始まり、何人も団長が産まれ酒井団長が倒れたため大井かつ江さんが団長となりました。そして私は13代目になります。

2人か3人の為継続不可能となり、中央合唱団107期に合流し、結局研究生は私1人になつてしまい、南部合唱団に入団しました。その7年後団方針3つの三桁(団員100名事業100万うたごえ新聞100部)を達成すべく、1984年度より第31期研究生を再開、若い団員を中心に委員会を発足(委員長加山)キャッチコピー「ドキドキときめき青春1ページ」を掲げ斬新なチラシ(当時として?)団員の知人や職場の仲間はもちろんのこと、各地域のサークルに呼び掛け16名でスタート6ヶ月の研究



生を終え10名が入団しました。続けて、32期研究生は10名中4人が入団。その人達が大きく育ち団発展の原動力となり、音楽面でも全国で1位2位を獲得するほどになりました。団創立27周年音楽劇「青春の譜」これは、31期研究生を題材にしたもので、2回公演しましたが、合唱とソロそして、芝居の演技と組織など、大変でした

6月10日開催でしたが、写真を撮り忘れてしまい17日のレッスン後に撮影しました。前列中央が新団長の加山忠さん、前列右が前団長大井さん。当日参加していた本間さん、芋川さん、森田さん、ごめんなさい。

団長退任のご挨拶 前団長 大井かつ江

昨年、母が亡くなり、一人暮らしの実家の父を度々訪れなければならず、今総会で、24年間という長きにわたり努めさせていただいた、南部合唱団の団長を退任致しました。団員の皆さんはもちろん、友の会の皆さんや南部合唱団を支えていただいている地域の皆さんの、大きなバックアップがあつてこそ、楽しく、時には苦しいことがあつても続けてこられたものと思っています。本当にありがとうございました。後任は、加山忠さんです。私も引き続き団運営委員として、加山団長をバックアップしてまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。

が有意義な日々でした。合唱団3つの班(品川、大田、目黒)それぞれで取り組んだうたう会、1983年に当時の指揮者木村さんと私で、大田福祉工場を訪問し、うたう会をやりませんかと訴えましたが、当初全く相手にされず何回か足を運ぶ中少しずつ柔軟になっていきました。それならば隣の大田通勤寮にも声をかけ、この2つの団体と南部合唱団で、福祉工場敷地で「グリーンピースクンサート」を開催しました。最初は難色を示しましたが、最後は皆で喜び合いました。障害者を乗せて走った「ひまわり号」での、列車内でのうたう会を担当したことも貴重な体験でした。私にとつて一番の経験は、2007年に日本のうたごえ60周年記念祭典の企画として、30年ぶりに南部で祭典を開催し成功できたこと。南部地域の合唱団やうたごえサークルのみならず、各地域の団体(年金者組合、新婦人保育士、民青、介護士さん等々)実行委員会を何回も重ねましたが、最初の内は集まりも悪く中々まとまりませんでした。本番に向かつて皆が集中してきまして。うたごえの人達だけではなく、様々な職業や立場の人達をまとめここの難しさを痛感しました。それが同時に運動を大きく発展させるものだと思います。以上、まだまだありますが私が直接的に経験したことですが、皆さんもいろいろな経験があると思います、その経験を活かして、初心に戻り今団にとつて最重要課題の団員募集にさまざまな方法で挑戦していきたいと思ひます。それには、団員皆さんの力をお借りして総会の方針5人以上の団員拡大うたごえ新聞25部拡大に向かつて頑張りましょう。そして、来年65周年記念音楽会を成功させましょう。